

テーマ：景気動向指数（2月）の予測

発表日：2010年3月31日（水）

～一致C I、先行C Iとも改善傾向が続く～

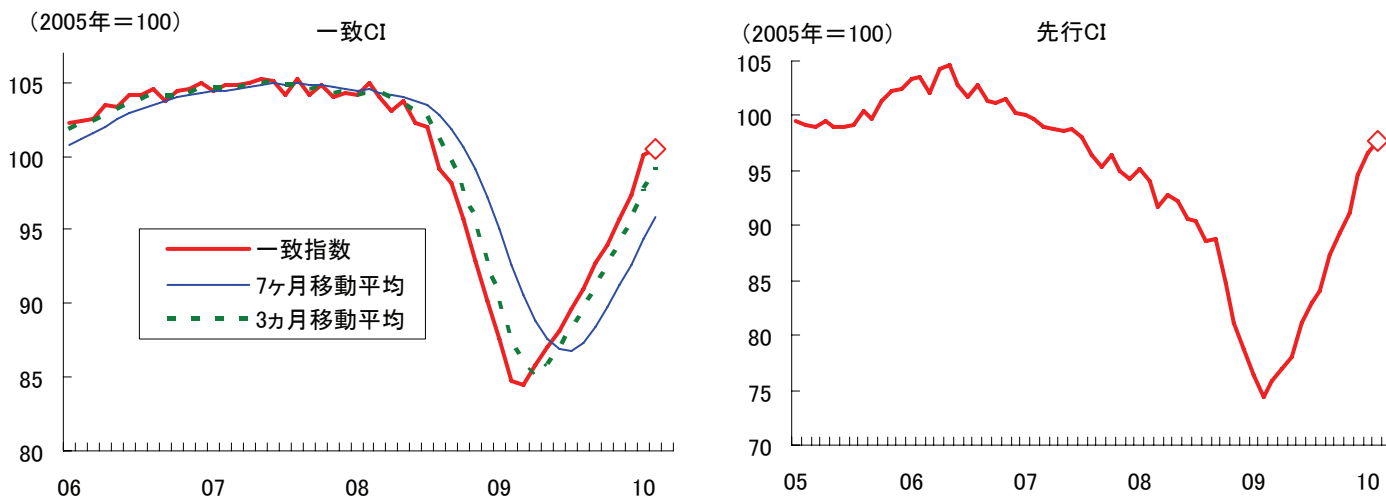
第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## ○ 一致、先行とも改善傾向が続く

内閣府から4月6日に公表される10年2月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.4ポイントと、11ヶ月連続の上昇が予想される<sup>1</sup>。輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムとして上昇しており、景気回復が持続していることが示される見込みだ。伸び率についてはこれまでと比較して低いものになっているが、これは2月の生産関連指標が若干弱含んだことが影響している。だが、3月の生産予測指数が前月比+1.4%となっていることから分かる通り、2月の生産低下は一時的なものであると考えられる。3月分については、C I一致指数は再び伸びを高める可能性が高いだろう。

C I先行指数は前月差+1.0ポイントと、12ヶ月連続の上昇を予想する。前月から伸びは鈍化しているが、依然として高い伸びが続いている。また、D Iについては、一致D Iが100%、先行D Iが90.0%が予想される。一致D Iは2ヶ月連続の100%となる見込みだ。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「改善を示している」が維持される可能性が高い。内閣府の定義によれば、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」とされている。一致C Iからも、景気回復局面の継続が確認されるだろう。



(出所) 内閣府「景気動向指数」

※直近の値は第一生命経済研究所予測値

<sup>1</sup> 水準でみると、2月の一致C Iは100.5が予想されるが、これはリーマンショック直前である08年8月の水準を上回っている。もっとも、現在公表されている一致C Iは、外れ値の刈り込みという指数作成上の問題により景気的水準を大幅に過大評価している可能性が高く、実際の景気はリーマンショック前を大幅に下回る水準にとどまっていると考えられる。この点についての詳細は、第一生命経済研究所 Economic Trends「景気判断をミスリードする景気動向指数」（3/5 発表）をご参照ください。